

京都産業大学

公募推薦入試 「情報（文系）」サンプル問題

京都産業大学では、2027 年度入試より、公募推薦入試「情報プラス型」を全学部・学環に対象を広げて実施します。

情報プラス型は、文系と理系で出題形式が異なりますが、情報を整理・分析し、論理的に考察する力を問うという基本的な考え方は共通しています。そのため、文系の受験を考えている方も、2026 年度入試に実施した公募推薦入試「情報プラス型」（理・情報理工学部を対象に実施）の問題を参考にしてください。

[★2026 年公募推薦入試過去問題集（19 ページ～）](#)

2026 年度公募推薦入試「情報プラス型」の大問Ⅲでは、プログラミングの問題を出題しましたが、文系では、プログラムコードを扱わずに、提示されたデータ処理を実現する処理を推定する能力を問う形式で出題します。

（次のページから「情報（文系）」サンプル問題 大問Ⅲが始まります）

〔Ⅲ〕 以下の文章を読んで、設問(A)～(C)に答えなさい。

バーコードの規格にはさまざまなものがあるが、この問題では単純化した以下のルールによる表現方式(以降「本方式」とする)を検討する。

ルール 1 : 1つの文字を n 本のバーで表現する

ルール 2 : バーには幅が広いものと細いものの 2 種類ある

ルール 3 : ルール 1 に示した n 本のバーのうち 2 本だけが広い

ルール中の n を 5 とした場合、A～D の文字を例えば図Ⅱ-1 のように表現できる。



図Ⅱ-1. n を 5 とした場合の本方式での A～D の文字の表現例

なお、本方式ではバーコードを左から右に読むため、例えば図Ⅱ-2 に示すように文字「A」を 180 度回転させたバーコードは別の文字として扱われる。



図Ⅱ-2. 文字 A(左)を 180 度回転させたバーコード(右) (矢印は読む方向を意味する)

設問(A)

ルール中の n を 5 とした場合の本方式で表現できる文字は最大何種類になるか検討し、その値を解答欄 に 2 桁でマークせよ。10 未満の場合は に 0 をマークすること。

設問(B)

ルール中の n をいくつに変更すれば、数字 10 種(0～9)と英大文字 26 種(A～Z)を表現できるようになるか検討し、その最小値を解答欄 に 2 桁でマークせよ。10 未満の場合は に 0 をマークすること。

設問(C)

設問(A)に示した方式で英字からなる製品記号 3～5 文字をバーコードで表現し、ラベルに印刷し箱の側面に貼って在庫管理に使いたい。図Ⅱ-3 に製品記号「ABCD」に貼るラベルの例を示す。バーコードの読み取り機は矢印が示すようにバーに対して横方向にレーザーを当てて(スキャンして)バーの幅の広さを読み取る。



図Ⅱ-3. ラベルの例

しかしラベルはシワや汚損によって、正しくバーコードから製品記号を読み取れずエラー(そのようなバーの並びの文字はない)と判断されるか、あるいは誤った(箱の中の製品と一致しない)製品記号として認識される可能性がある。以下のそれぞれの状況説明について正しいものには 1、誤っているものには 2 を解答欄にマークせよ。

1. バーの幅について、1 本だけ広い幅を細い、または細い幅を広いと読み間違えた場合、エラーとなる
2. バーの幅について、2 本の広い幅を細いと読み間違えた場合、エラーではなく誤った(箱の中の製品と一致しない)製品記号と認識される
3. 箱の上下(天地)が逆になって積まれ、読み取り機がバーの並び順を逆から読んだとしても、必ず正しい(箱の中の製品と一致する)製品記号を認識できる
4. シワやラベルの欠損によってバーをいくつか認識できなかった場合、エラーになるだけで誤った製品記号として認識されることはない

解答例

〔Ⅲ〕

(A)	ア	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
	イ	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
(B)	ウ	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
	エ	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
(C)	1	1	2								
	2	1	2								
	3	1	2								
	4	1	2								